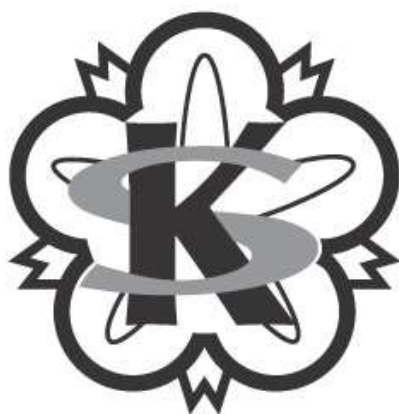


# 第5学年 小石川フィロソフィーV

## 令和2年度 講座概要集



5年	組	番	氏名	
----	---	---	----	--

番号	講座名	担当教員	人数
1	メディアリテラシー		13
内容(目標,進め方など)			
<p>大手メディアの情報とネットの情報。どのような「情報」であれ、そこには発信する側と受信する側のバイアスがかかっている。溢れる情報を、映像や音楽、動的コンテンツなどのマルチメディアは、どのように表現し我々に発信しているのだろうか。メディアを通して発信される情報を、我々はどのように吟味し、評価していく必要があるのか、を考えていきたい。</p> <p>前半は、リップマン『世論』・サイード『イスラム報道』・山本七平『「空気」の研究』などを読み、バイアスがどのように形成されていくかを、紐解いていく。後半は、研究テーマを決め、取り組み、論文を作成する。</p>			
受講希望生徒へ(生徒への注意点・要望・心構え、選考方法など)			
<p>「話す・聞く」「読む」「書く」という行為のほかに、「みる(見・観・視)」ということ意識し、メディアを分析していく。「みること」に興味を持てる生徒、また、「話す・聞く」「読む」「書く」「みる(見・観・視)」という力を身につけたい生徒を求む。</p>			
初回までに準備しておくこと(課題や持ち物など)			
筆記用具			
費用(見込み)			
書籍購入費など			

番号	講座名	担当教員	人数
2	現代短歌		13
内容(目標,進め方など)			
<p>この講座では、各自テーマに基づいた歌集を編むことを目標とする。歌集には、詠み手以外の受講生による評釈を加える。</p>			
<b>歌集の編纂</b>		<b>研究論文</b>	
1 学期前半：輪読による短歌の基礎理解		短歌に関する先行研究を調査	
1 学期後半：歌会・プロの短歌を評釈		研究テーマ・研究の方法を発表	
夏休み中：全国高等学校文芸コンクールに応募		研究テーマ・研究の方法を決定	
2 学期前半：歌会・プロの短歌を評釈		調査・発表・研究要旨提出(中間報告)	
2 学期後半：歌会・歌集に載せる歌を精選		調査・発表	
3 学期：歌会・短歌評釈を執筆・歌集提出		調査・発表・研究要旨・論文目次提出	
受講希望生徒へ(生徒への注意点・要望・心構え、選考方法など)			
<p>ほぼ毎週歌会を開くため、週二・三首は歌を詠む心構えでいてください。五感と語感の優れた生徒を歓迎します。歌会では渾身の一首が批判されることもあります。自分が否定されているのではなく、歌の出来具合の話と割り切って、他者のつつこみを面白がれるくらいがいいでしょう。</p>			
初回までに準備しておくこと(課題や持ち物など)			
下記書籍			
紙の国語辞典			
B5ノート			
費用(見込み)			
書籍購入費			
俵万智『考える短歌一作る手ほどき、読む技術』¥726-			

番号	講座名	担当教員	人数
3	戦争映画を読み解く		13
内 容 (目標, 進め方など)			
<p>戦争を主題とした映画を観て、戦争の描かれ方の読み取りと史実の調査との比較を通して、映画の作り手の「視点」を読み解きます。</p> <p>1学期はこちらで映画を指定し、授業ではそれぞれが読み取ったことや調べたことを中心にディスカッションを行います。2学期は、各自で選んだ映画について研究を進めます。授業では、お互いの研究に関するテーマや調査内容のディスカッションを行い、2学期後半から論文を執筆します。</p>			
受講希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
<p>映画好き&amp;歴史好きの生徒の受講を歓迎します。</p> <p>指定された映画を期日までに観ていることを前提に授業を進めます。</p> <p>担当教員のジョシュア・ハイドは英語で講義やディスカッションを行います。</p>			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
特になし			
費用 (見込み)			
映画の視聴にかかる費用 (レンタルやダウンロード等)			

番号	講座名	担当教員	人数
4	Cool Japan 海外へ広がる日本文化		13
内 容 (目標, 進め方など)			
<p>海外へ発信された日本文化、海外へ発信したい日本文化についての研究を通して、日本文化の特殊性・普遍性を探る。</p> <p>最初に COOL JAPAN に関する基本的な情報を得る。講義・輪読(英語論文)を行う。</p> <p>その後、各自が決めたテーマについて調査・発表し、論文をまとめる。</p>			
受講希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
<p>アニメやマンガ、カワイイなどのオタク系文化や、歌舞伎・和食などの伝統文化に興味がある人の参加を待つ。海外からみた日本文化を理解するために、最初に Cool Japan の代表例としてマンガ・アニメに関して講義を行い、その後英語論文の輪読(1つの長い文章や本を、少しずつ分担して読んで、他の人に紹介する)を行う。英語論文の英語は、特に難しくはないはずだが、簡単ではないことと、背景にある社会情勢などを知らないと分かりにくい部分もあるので、甘く見ないように。</p> <p>その後は、自分で決めたテーマを調査していくので、文献を読んだり、資料を調べたりすることが好きでなければいけない。講座内で途中経過の報告・討論をするので、自分が調査している分野以外のことにも積極的に興味・関心を持って発言できなければいけない。</p> <p>原則として毎回アクションペーパー(何をやったか・次回への課題)の提出を求める。その他、発表のレジュメ等の提出を求める。提出期限をきちんと守れないといけない。</p>			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
<p>授業再開後、比較的早い時期に調査・研究の構想発表をしてもらうことになると思うので、調査対象についての基礎知識を、自分で得ておくことが望ましい。</p> <p>図書室にある昨年度までのレポートに目を通しておくこと良い。</p>			
費用 (見込み)			
特に無し			

番号	講座名	担当教員	人数
5	数学研究		26
内 容 (目標, 進め方など)			
① 各自が数学に関する研究を調べて、興味があるものを探す。 ② 数学がどのように発展できるか、他分野に活用できるか予想をたて、見通しをたてる。 ③ 試行錯誤して研究をすすめる。レポート作成。(7月末まで) ④ レポートを推敲する。(8月) ⑤ コンクールや発表会に参加し、よい発表をきき、参考にする。自分も積極的に発表、出品する。 (夏～3月随時) ⑥ ⑤から得たヒントをもとに、さらに研究をすすめる。(夏から11月) ⑦ ポスターと口頭発表用パワーポイントを作成。(11月末まで) ⑧ 2月の海外修学旅行で、各自が数学的な分野の研究発表を行う。			
受講希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
自らで課題の扉を開けて、恐れず分け入って切り拓く態度が大切です。			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
筆記用具			
費用 (見込み)			
図書館で書籍を借りて研究することが原則ですが、必要なら各自で随時興味のある書籍等を購入してください。 校外で発表したり、他校の発表を聞きに行くときなどの交通費は原則自己負担となります。			

番号	講座名	担当教員	人数
6	空飛ぶ物理一座		7
内 容 (目標, 進め方など)			
① 物理チャレンジへの参加を通じて実験の技術とレポートの書き方を学ぶ。 ② テーマを設定する。 ⇒ 最も重要な部分。物理分野の疑問や、調べたいことからテーマを設定・調整し、原則テーマの近い者同士での少人数グループでの研究活動とする予定。 ③ 研究活動を行う。 ④ SSH発表会やコンクール等で、成果を発表する。			
受講希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・やる気ある生徒、教員の指示を待つのではなく自ら考えて行動できる人、あきらめない人のみ受講希望してください。</li> <li>・定員を上回る希望があった場合は、3年で理科の講座を選択した人や、すでに今年度の物理チャレンジの実験課題に取り組んでいる人を優先します。</li> <li>・研究内容によっては、実験に必要な物品を購入してもらう必要があります。費用負担があることを、保護者の方とともに了承してください。</li> </ul>			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・物理チャレンジのウェブサイトを見たり、自分の興味関心を見つめなおす。</li> <li>その上で、物理分野の疑問や調べてみたいことを3つ以上探しておく。</li> <li>・昨年度までの自分の小石川フィロソフィーの活動内容に目を通して確認しておく。</li> <li>・初回に、フィロ5ノート、筆記用具、調べたいテーマに関する書籍/資料を持参すること。</li> </ul>			
費用 (見込み)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の実験に必要な物品の購入代 (実験装置は、物理室にあるものは、基本無料で利用可)</li> </ul>			

番号	講座名	担当教員	人数
7	化学研究		7
内 容 (目標, 進め方など)			
<p>①化学分野の疑問や、調べたいことを探す。 → 化学に興味があり、疑問を思いつく生徒が、この講座の受講に適している。</p> <p>②テーマを設定する。 → 研究の道筋が立てられたものの中から、テーマを一つに絞る。 テーマの設定こそ、最も時間がかかり、もっとも重要な部分である。</p> <p>③研究活動を行う。 → 場合によっては放課後のオープンラボも活用して、研究を行う。 研究の進捗状況に気を配り、先の予定を考えながら進めることが必要である。</p> <p>④シンガポール修学旅行、SSH発表会やコンクール等で、成果を発表する。 → 原則として、受講者全員が何らかの発表を行う。 発表のための資料作りや、発表練習も必要である。</p>			
受講希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学分野の研究では、うまくいかないことでも継続的に試行錯誤を繰り返す忍耐力が必要です。大学等の研究にもつながる内容ですから、自身の将来を見据えた志をもって参加することを望みます。</li> <li>・化学の研究ですから、必ず実験を行います。学校で十分な実験時間がとれない場合は、家庭で工夫して実験してもらいます。</li> <li>・研究内容によっては、器具や薬品などを購入してもらう必要があります。費用負担があることを、保護者の方とともに了承してください。</li> </ul>			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学分野の疑問や、調べてみたいことを5つ以上探しておく。昨年度までの研究に目を通す。</li> <li>・白衣と安全めがねを用意する。</li> </ul>			
費用 (見込み)			
研究内容による。			

番号	講座名	担当教員	人数
8	生物学研究		7
内 容 (目標, 進め方など)			
<p><u>目標</u>            研究活動を通して3つの力を伸ばす。            ▶ 生物学研究の手法 (実験・観察) や成果のまとめ方を学ぶ。            ▶ 研究活動を効果的に進める手法 (→プロジェクトマネージメント) を学ぶ。</p> <p><u>進め方</u>            1. 研究テーマを設定する。            2. 研究計画を立てる。            3. 研究活動を行い、成果をまとめる。            ※その他、講座内で定期的に研究の進捗状況の共有を行います。また、研究成果はSSH発表会やコンクール等、外部へ積極的に発信していきましょう。</p> <p><u>受講を考えている人へ・前回受講生からのメッセージ</u>            理系なら受講して損はない／大変だけど自分のためになりました／計画性のある人に向いていると思う／仲間とともに刺激的な研究活動ができる／1年終わった後に後悔しないことを保証します／割と本気でやりたい人向きです</p>			
受講希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
<p><u>要望・心構え</u>            1. 生物に対する興味・関心があり、積極的に学び、行動する意思があること。            2. 研究の対象となる生物に敬意をもち、粘り強く観察に取り組むこと。            3. 放課後や休日・長期休業中のオープンラボも活用し、意欲的に研究する意思があること。</p> <p><u>注意点</u>            研究内容によっては、実験器具・薬品などを購入したり、生物試料を自分で捕獲したりする場合があります。費用負担が発生するかもしれないことを、保護者の方とともに了承してください。</p> <p><u>選考方法</u>            受講希望者数が募集人数を超えた場合は、「生物学分野の疑問や調べてみたいこと」をテーマに面談を行い、受講者を決定します。</p>			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生物学分野の疑問や、調べてみたいことを3つ以上探しておく。</li> <li>● 前回「生物学研究の」研究論文を眺めておく。</li> <li>● 1に関連する書籍、フィロ5ノート、筆記用具を持参すること。</li> </ul>			
費用 (見込み)			
—			

番号	講座名	担当教員	人数
9	地学研究		7
内 容 (目標, 進め方など)			
<p>地学に関するテーマを設定し、データを集め、グラフ化して検討し、考察を行う。自然現象を捉えることは難しいが、地道に観測データを蓄積してまとめて欲しい。テーマによっては、フィールドに出向き、データをとらなくてはならないものもある。ちなみに、一昨年度から相手を頼ってしまう人もいたので、共同研究は、認めていない。過去5年間の主なテーマは、</p> <p><b>天体</b> 変光星3 H<math>\alpha</math>線による太陽プロミネンスの観測1 流星の電波観測2 アイソン彗星1 月食時の最微光星1 東京で天体観測をする方法1</p> <p><b>湧水</b> 赤羽自然観察公園5 和光市白子湧水群2 里美公園羅漢の井1 柳の井戸1 小豆沢公園の湧水1 飛鳥山の湧水1 柴又帝釈天の御神水1 香取神社の地下水1</p> <p><b>気象</b> 酸性雨関係6 雨滴の大きさと雲の厚さ2 接地逆転層の観測1 観天望気1 視程1 蜃気楼1</p> <p><b>化石</b> 飯室層の化石2 飯室層の有孔虫1 佐野市葛生のフズリナ1</p> <p><b>鉱物</b> 渋沢峠の黄鉄鉱1</p> <p><b>地震</b> 異常震域1</p> <p>などである。引き継ぎを行い、継続研究ができるテーマもあるが、11期生が独自にテーマを設定し、取り組むことも期待している。</p>			
受講希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
<p>地道に観測データを蓄積することは、とても大変な作業になります。途中である程度まとめてみると、方法が適しておらず、一からやり直さなければならないこともあります。フィロソフイーの2時間は、途中経過を報告し、アドバイスを受ける時間です。とってきたデータをまとめる時間です。この時間以外に観測をして、データが集められない人は、この講座には向いていません。この1年の研究は、苦しいかもしれませんが、将来、大学で卒論を書く上で、きっと役に立つことでしょう。アドバイスを受けながら、前向きに取り組める生徒に受講して欲しいです。</p>			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
<p>受講するか迷う人は、地学室に過去の先輩の論文や資料も置いてありますので、気軽に質問をしに来てください。</p> <p>受講が決まった生徒は、何をどのように調べ、どうまとめていくか。いくつかのテーマの候補を準備してきてください。</p>			
費用 (見込み)			

番号	講座名	担当教員	人数
10	保健体育・スポーツ		13
内容（目標、進め方など）			
<p>1学期は自身の興味関心をもとにして競技力向上のための動作分析の実験・検証、食事・休養方法、保健活動、競技特有のけがへの対処、スポーツ障害、リハビリテーション、予防法、各種競技にかかわるデータ記録を戦略や対戦、技術力向上における分析を行う。</p> <p>2学期、3学期は1学期に取り組んだ内容を発展させ、研究を深め、発表できるように準備を進める。また、オリンピック・パラリンピックを支える分野や国際大会のもたらす経済効果や問題点、スポーツの発展やブームの社会的背景などについての研究も可能。</p> <p>3学期は論文作成が主となる。</p> <p>《補足》先輩が行った研究に興味がある生徒は研究を引き継ぐことも可能。（図書室の論文冊子参考）</p>			
受講希望生徒へ（生徒への注意点・要望・心構え、選考方法など）			
<p>運動部活動を通して競技力向上を目指す人、または運動は得意でないがあらゆる側面からスポーツを深く考え、オリンピック・パラリンピックに関心がある人。実技は事前に打ち合わせの上、希望者のみ可。</p>			
初回までに準備しておくこと（課題や持ち物など）			
興味関心のある先行研究などの資料があれば持参する。			
費用（見込み）			
—			

番号	講座名	担当教員	人数
11	音楽表現		7
内容（目標、進め方など）			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「表現豊かな音楽活動」を目指し、①②に関して研究活動を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 全員で1つの楽曲を作り上げる音楽活動を通し、豊かな表現活動の向上に取り組む（今年度は、合奏を中心に活動します。時節柄、合唱はできません。）</li> <li>② 個人で音楽表現に関わる研究テーマを設定し研究に取り組む。</li> </ul> </li> <li>・A3 ポスター、A4 研究要旨の作成予定（フィロV全員）</li> </ul>			
受講希望生徒へ（生徒への注意点・要望・心構え、選考方法など）			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・バンド活動（大きな音が出る活動など）は、行いません。</li> <li>・音楽表現の講座なので、専門書を読み進めるだけでなく、実際に演奏や実験など体験に取り組み、調べ学習だけになることのないようにする。</li> <li>・表現活動を通しての展開になるので、表現活動が苦手な人は得意になるように頑張りましょう。</li> <li>・希望者が定員を超えた場合は、希望理由をもとに選考します。</li> </ul>			
初回までに準備しておくこと（課題や持ち物など）			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな内容の表現活動をしようかいくつか候補を考えておきましょう。</li> <li>・筆記用具</li> </ul>			
費用（見込み）			
個人の研究テーマに必要な楽譜などを購入します。持っていれば購入はありません。			



番号	講座名	担当教員	人数
12	美術作品研究 (日本伝統文化)		7
内 容 (目標, 進め方など)			
まず初めに日本の伝統文化について理解するための共通の課題に取り組む。その後、自分の興味・関心に合わせて、さらに探求したいことを決定、研究して論文を作成する。			
受講希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
作品制作がメインではありません。			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
特になし			
費用 (見込み)			
美術館へ行く際の費用や実証や実験のために画材や用具を購入することがある。 すべて、各自の負担となる。年間で1000円から3000円程度。			

番号	講座名	担当教員	人数
13	Basic Parliamentary Debate in English		12 or 14名 ※偶数
内 容 (目標, 進め方など)			
コミュニケーション英語でパラメンタリーディベートは既に行っていますが、再度、基礎から練習をします。パブリックスピーキングの練習も含まれます。基本的に英語で行いますが、英語力養成というより、ディベート活動を通して課題解決のための思考力・判断力・表現力を養成することが目標です。			
身近な生活に関するわかりやすいテーマから時事問題に至るまで様々なトピックに賛成、反対の立場から論理的、理性的に、説得力をもって、他に伝えられる「生きていく上で必要なディベートスキル」を身につける最初の一歩と考えています。			
受講希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
主体的に参加する積極性と他の参加者を尊重する姿勢を求めます。論争に勝つことが目的ではありません。お互い切磋琢磨して、共に向上していこうという心構えを求めます。希望者が定員を超えた場合は、希望理由をもとに選考します。			
また、今までディベートを苦手としていたような生徒に積極的に参加してほしいです。英語力は問いません。もちろん真摯に取り組む態度は必須です。			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
電子辞書、筆記用具			
費用 (見込み)			
書籍購入費 A New Introduction to Debating in English Book2 (約2,500円) 他必要に応じて			

番号	講座名	担当教員	人数						
14	国際理解		13						
内 容 (目標, 進め方など)									
<p>○本講座の概要。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間・社会・文化について関心を持ち、個別にテーマを決めて研究を行う。</li> <li>2. 英語の文献（論文、小説、スピーチや音楽）を研究材料とする。</li> </ol> <p>○本講座の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究テーマを設定する。</li> <li>2. 研究計画を立てる。</li> <li>3. 研究活動を行い、成果をまとめる。</li> </ol> <p>研究例：社会における価値観の違い</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-right: 20px;"> <p>Y</p> <table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">バルト3国</td> <td style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">日中韓</td> <td style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">北欧</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">アフリカ諸国</td> <td style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">南米諸国</td> <td style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">英語圏</td> </tr> </table> <p>X</p> </div> <div style="margin-left: 20px;"> <p>World Values Survey 2010-2014 から作成</p> </div> </div> <p>x 軸：経済的安定や身体的安全への欲求が満たされており、環境保全に対する関心が高く、外国人や同性愛に対して比較的寛容な傾向がある。</p> <p>y 軸：宗教的戒律から自由で、合理的な考え方を好み、離婚や妊娠中絶、安楽死に対して比較的寛容な傾向がある。</p>				バルト3国	日中韓	北欧	アフリカ諸国	南米諸国	英語圏
バルト3国	日中韓	北欧							
アフリカ諸国	南米諸国	英語圏							
受講希望生徒へ（生徒への注意点・要望・心構え，選考方法など）									
<p>World Value Survey（英語版）を全員で読み、国際理解の基礎を培う。その後、それぞれがテーマを設定し、研究活動に取り組む。</p> <p>研究材料として、英語の文献を用いる。</p>									
初回までに準備しておくこと（課題や持ち物など）									
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <a href="http://www.worldvaluessurvey.org/WVSContents.jsp">http://www.worldvaluessurvey.org/WVSContents.jsp</a> に一通り目を通しておく（内容について説明を求めることがある）。</li> <li>2. 人間・社会・文化について、気になることや関心があることを3つ以上考えてくる。</li> </ol>									
費用（見込み）									
文献が図書館やインターネット上に存在しない場合、文献を購入する必要がある場合がある。									